

### (賛成討論)

市議案第128号工事請負契約の締結について、賛成の立場ではありますが、討論をします。大手ゼネコンにとっては、一定規模以上の案件でなければ魅力がなく、一方で、市内事業者、とりわけ建設業者にとっては、大手ゼネコンとのJV(共同企業体)方式での参加であっても、規模が大き過ぎて、参加を躊躇うといった実態があるようです。市内業者への発注を目的として、たとえ今回の案件を1園ずつに分けての入札にしたとしても、入札に参加意欲や関心を持つ市内の建設業者はほとんどないことが想定されるようです。JV方式による発注の狙いは、市内事業者の受注機会の確保や技術的な育成にあります。参加意欲を示す市内事業者が少なければ、今回の入札結果のように、ごく限られた参加意欲のある市内事業者と手を組めた大手ゼネコン等による共同企業体だけが応募、応札する(応募、応札できる)ケースが今後も続くことが懸念されます。そうなれば、JV方式による発注の狙い、市内事業者の支援や育成というメリットが得られることはなく、限られた市内事業者のみの支援や育成に留まると共に、同一の組み合わせ、同一の業者同士の企業体ばかりの応札が続く可能性が想定されます。むしろ、JV方式にこだわることで、競争性が働かず、価格的にも技術的にもメリットが得られない可能性すら懸念されます。JV方式での発注は、もともと市からの提案ではなく、市内事業者側からの要望から導入された手法と記憶していますので、今述べたような状況を非常に残念に思います。今回のような規模での設計施工一括発注は初めてとのことで、もう少し、今後の同様の入札結果を注視する必要がありますが、ほとんどの市内事業者が興味を示さない一定規模以上の発注については、本当にJV方式により、幅広く市内事業者の支援や育成というメリットが得られるのか、メリットがほとんどないと判断すれば、大手ゼネコン等の単独での入札参加も可能とした方が、市としての価格面や技術面でメリットが得られるのではないかなど、今後の検討課題として頂きたいと要望して討論とします。